

平成29年6月市議会における政策提案とその対策等

〔議案質疑・**一般質問**・委員会〕

担当課	学校教育課	議員名	弘川 貴紀 議員
<p>〔提案事項〕</p> <p>学校図書館の活用について、現在の学校図書館は電算化できておらず、どんな本があるのか素早く探ることが難しい。うちどくの広がりや調べる学習コンクールへの取り組み、学校図書館への大口の寄付があった今が、市民図書館と連携した電算化を行う絶好のタイミングではないか。</p> <p>また、学校図書館について、校長のリーダーシップの下、組織的な学校図書館の運営がなされる必要があると考える。文部科学省の「学校図書館の整備充実について（通知）」の中に、教育委員会が校長を学校図書館の館長に指名することも有効とされているが、指名についてどう考えているか。</p>			
<p>〔現況等〕</p> <p>本市では、「こども読書のまち・いまり」宣言や、「日本一のうちどく推進のまち・いまり」宣言をし、各学校ではうちどくの推進や、調べる学習コンクールに積極的に取り組んでおり、校長はすでに学校図書館の責任者として、高い意識をもって学校図書館の運営にあたっている。</p> <p>また、学校図書館は電算化していないため、本の貸出や返却等の資料の管理はカードに記入しながら行っている状況であり、電算化が求められている。</p>			
<p>〔政策提案を受けての対策〕</p> <p>学校図書館は、「読書センター」、「学習センター」及び「情報センター」としての機能を有しており、児童生徒の豊かな読書活動と個性的で発展的な学習を推進するためにも、校長のリーダーシップを発揮した学校図書館の運営は今後も重要なことと考え、校長を学校図書館長へ指名する。</p> <p>また、効果的な図書館運営を支援するため、補助金等の制度を活用できるタイミングを計り、学校図書館の電算化を行う。</p>			
<p>〔対応状況・平成30年6月30日現在〕</p> <p>平成29年9月の校長会で、校長を学校図書館長へ任命した。</p> <p>学校図書館の電算化については、平成30年6月議会で予算計上を行い、学校図書館のICT化推進に対する助成金を活用し、電算化作業を開始する。 【完了】</p>			